

2 事業提案書

① 区民（利用者）により一層親しまれ、利用度・利便性の高い公共施設にしていくための下馬図書館らしい取り組み

01 地域の施設(人)+体験+本をつなぐ事業

下馬図書館内は、行事用のスペースが限られるため、参加型事業では近隣施設の活用等が必要になります。この点をプラスに転嫁し、連携して事業を実施することを機会に地域と人のつながりを創出してまいります。また、図書館外の様々な施設・環境で事業を行うことは、特に子どもたちにとっては、非日常的な体験にもつながります。下馬図書館の事業ではこの「体験すること」を重視し、「体験」と「読書活動」を両輪として、子どもたちが楽しく学び、感性に響く事業を企画・実施したいと考えています。

① ライブラリーブックサーカスの開催

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、図書館でのイベントは、参加人数を制限したり、オンラインでの開催に切り替えたりすることを余儀なくされ、人と人、人と情報が出合い、まちの賑わいを創出し、新たな文化を発信する場としての図書館の機能を発揮しづらい状況が続いています。

私たちは、コロナ禍でも安心して開催でき、参加者も充実感を得られるオフラインのイベントを目指し、「ライブラリーブックサーカス」を全国の受託図書館で開催しています。下馬図書館においても、公園内という立地を最大限活用しながら、下記の目的・イベント内容で開催いたします。

2 事業提案書

① 区民（利用者）により一層親しまれ、利用度・利便性の高い公共施設にしていくための下馬図書館らしい取組み

□ イベント内容

■ 下馬を知る10のキーワード選書

■ 特産品展示

■ 教えて司書さん！

■ 歌い聞かせ

■ チケット型メッセージカードの展示

参加者に街の好きなおとこや図書館での思い出、イベントの感想などを記入してもらい、展示します。メッセージカードを書いた参加者に地元特産品をプレゼントします。



2 事業提案書

① 区民（利用者）により一層親しまれ、利用度・利便性の高い公共施設にしていくための下馬図書館らしい取組み

② 三宿商店街連携

図書館に程近い「MishukuR420(通称:三宿四二〇商店会)」では、商店等の事業者を中心に、世田谷区公園で開催される「三宿さくらマルシェ」や「三宿夏祭り」等のイベントや、三宿通りの街路灯整備、清掃活動等、さまざまなまちづくり活動を展開されています。

図書館としても積極的に三宿四二〇商店会との連携を図り、イベントや環境美化の地域活動を通して、人と人のつながりを意識した創造性あふれるまちづくりに参画してまいります。

三宿四二〇商店会 パンフレット

<イベント事例>

- ・ 世田谷公園イベント開催時に、図書館は青空おはなし会・リサイクル市として参加。
- ・ 図書館内で商店街の取組み紹介や世田谷区の特産展示を行う。
- ・ 商店街の方を講師にお招きした、こども向けお仕事紹介講座を開催。

■ 青空BOOK市(リサイクル市)

三宿四二〇商店会主催の世田谷公園イベント開催時に、公園内で寄贈本のリサイクル市を行います。手書きPOPや、スタッフによるおはなし会で本のおもしろさをアピールし、参加者に「本との出会い」を提供します。また、参加者同士が持ち寄った本を交換する本と人との新たな出会いを作り出すミニ企画など、活気ある楽しい場所を演出します。

リサイクル市のイメージ

③ 世田谷「本の森」体験(農林水産省林野庁コラボレーション企画)

農林水産省林野庁とコラボレーションし、都市で生活する人々、特に若い子育て世代を対象に、みどりの恵みや木のぬくもりを、見て、ふれることにより、さらなる魅力を体感的に理解していただけるよう様々な取組みを実践していきます。

実施にあたっては、こどものひろば公園、世田谷公園を活用し、「紙は木からできていること」を図書館資料も活用しながらこどもたちに伝え、実感することにより、環境問題への関心を啓発します。

農林水産省とのコラボにより日比谷公園でこどもと保護者を対象に実現した「森の学びプロジェクト」の様子。

2 事業提案書

① 区民（利用者）により一層親しまれ、利用度・利便性の高い公共施設にしていくための下馬図書館らしい取組み

02 高齢者向けの取組み

高齢者率の特に高い都営住宅などに近接している下馬図書館では、ひとり世帯の高齢者向けに、滞在型のサービスを充実させるほか、図書館主催の事業を介して、共通の趣味を持つ地域の方がサークルを発足させる、そうした「人をつなぐハブ」としても機能させていきます。

サークル活動自体は下馬図書館内では行えませんが、近隣の活動可能な場所や講師の紹介といった、コーディネートの部分で支援するとともに、活動に関連する資料のレファレンス、図書館内にサークル活動のポスターを掲示したり、館で制作する媒体に記事を掲載するような連携を行っています。

□ 区民による地域史・自分史をつくるワークショップ

参加型の生涯学習促進事業として、区民が自身で所有する地域にかかわる写真や資料を持ち寄ってもらい、オリジナルの地域史や自分史をつくるワークショップを開催します。試行錯誤の中で自然と学び合いが生まれる場となり、その総合的な学びのサポートを行って、それぞれの学び・気づきに導きます。また、ものづくりの試行錯誤で生まれた情報交換や人々との対話によって、新たな地域コミュニティ形成の機会創出につなげます。

また、本人承諾を得た自分史は、複製化やデジタル化を行い、館内での掲示や電子図書館の独自資料等で公開するなど、活用を図ります。

□ 回想サロン

過去の懐かしい思い出を語り合ったり、誰かに話したりすることで脳が刺激され、精神状態を安定させる効果が期待される取組みが「回想法」です。これまで高齢者の方が歩んできた人生を、新聞記事や写真を通して当時を振り返り、共通の話題を楽しむ仲間と過ごす場を企画します。

□ 終活セミナー

終活について、高齢者に正しい知識や情報を提供するために、専門家を講師に招き、終活セミナーを開催します。関連本を紹介し、自身でも知識を深められるきっかけを用意します。利用者自身の学びを深め、それぞれの老いにポジティブに向き合う機会をつくります。

2 事業提案書

① 区民（利用者）により一層親しまれ、利用度・利便性の高い公共施設にしていくための下馬図書館らしい取組み

□ プレゼント絵本選び

お孫さんに絵本をプレゼントしたいお年寄りはたくさんいらっしゃいますが、自身では選べなかったり、書店まで行くことが難しい状況があります。図書館員がレファレンスの一環として、対象の年齢やご希望に応じた絵本を選書し、ご提案します。

図書館に現物の絵本がありますので、ご自身で借りてから、気に入ったものを選んでいただくこともできます。サービス利用者には、図書館から特製「プレゼントカード」を1枚、おつけします。

※特製「プレゼントカード」は、近くの福祉作業所と連携し、印刷や作成していただくなど工夫します。

□ 医療介護・健康情報コーナーの設置

高齢者のひとり世帯や介護に携わっている方の課題解決に役立つ、医療介護・健康情報を揃えたコーナーを設置します。

疾病ごとの詳細な見出しや、病気や薬の調べ方がわかる資料や疾病ごとのブックリスト等を充実させます。

また、行政や病院等の地域の関連機関と連携し、「健康の啓発」と「病気の予防」の強化月間等に関する様々な情報を揃え、展示・イベントを通じて利用者が情報に触れる機会を演出します。



□ 電子図書館の操作説明会

世田谷区電子書籍サービスのシステムを導入させていただいている事業者として、電子図書館の運営チームの支援を受けながら、館内での操作説明会や相談会を開催します。

ご自身のスマホやタブレットや、説明用に端末を複数台用意して、基本的な操作方法のご説明や音声読み上げコンテンツ等、高齢者にも利用しやすいコンテンツをご紹介します、電子図書館の利用促進を行います。



2 事業提案書

- ① 区民（利用者）により一層親しまれ、利用度・利便性の高い公共施設にしていくための下馬図書館らしい取り組み

03 安全・安心に配慮した取り組み

① 職員の目が地域を守る

公園内に位置する下馬図書館の防犯・安全管理においては、施設内外の死角となる場所、及び公園と接する図書館裏手側など、図書館スタッフの目が届きにくい箇所を含め定期的に巡回し、事故・事件につながり得る予兆をできるだけ早くとらえ、不測の事態が生じる前に危機回避の対応を取ってまいります。

また、「地域全体での見守り・防犯」という連携の中に図書館も加わり、地域の方や近隣施設と一緒に地域の安全を守る活動、防犯活動等に取り組みます。

館内及び図書館外周については、1時間に1回、スタッフが巡回を行うように1日のタイムテーブルを作ります。

■ 館内

スタッフによる巡回以外にも、定期的な配架作業を通じてフロアの様々な個所に目を配ります。その際、お困りごとのありそうな利用者、あるいは図書館の利用マナーに外れている方積極的にお声がけをし、トラブルへの発展を未然に防止します。

■ 図書館館外周

死角となるブックポスト・駐輪場の見回りや、水溜り、植栽の乱れ、不審物の設置等、ケガや事故につながるような状況が生じていないかをチェックし、状況によって直ちに対応します。



死角となるブックポストや駐輪場

② 防犯カメラ設置によるセキュリティ強化

日頃の職員の定期巡回だけでなく、より安全・安心な管理運営のため、防犯カメラの設置をご提案いたします。

⇒詳細は「2 事業提案書④第2章で記載する自主事業の取り組み」をご参照ください。



2 事業提案書

② 昭和女子大学や近接する文化行政施設との連携強化等による地域に根ざした図書館の取組み

01 近接する文化行政施設等と連携した地域に根ざした取組み

たくさんの文化行政施設に囲まれた、地域特性溢れる図書館ならではの、地域に根ざした取組みを実施することで、図書館を拠点とした地域のつながりの輪を広げてまいります。

① 「えほんプロジェクト」地域の魅力を発信！子どもたちのアイデアを絵本にします。

子どもたちの地域への愛情を育むため、下馬の歴史を調べたり、地域の人たちの話を聞いたりして、子どもたちが関心を持ったことをテーマに絵本をつくります。

子ども(作家)と大学生(編集者)がペアを組み、企画、編集、作画、デザイン、印刷といった絵本を作成する工程を約半年をかけて取り組みます。完成した絵本は図書館の蔵書として登録し、世田谷区電子書籍サービスの独自資料として登録・公開します。新たな地域文化の発信となり、住民が地域の魅力に気づくきっかけにもなります。

昭和女子大学に協力を仰ぎ、大学生編集者を募ります。大学生編集者は、プロの編集者や印刷会社の方々から、絵本づくりに必要な知識を学び、子どもたちの絵本づくりを支援します。

子どもたちは、このプログラムを通し、多様な技術や経験を持つ社会人と交流できます。子どもたちの生きる力を地域の中で育み、そのことにより、地域の教育力も高まります。

このことは、住民の課題解決や地域振興に向けた連携・協働を促し、持続可能な地域社会の実現につながります。

2 事業提案書

② 昭和女子大学や近接する文化行政施設との連携強化等による地域に根ざした図書館の取組み

● 「えほんプロジェクト」の工程

STEP1 アイディアを見つける

アイディアノートの書き方や、自分の好きなキャラクターのを見つけ方、書き方や作り方。いろいろな視点からアイディアを形にすることの楽しさを知ります。

STEP2 企画を練る

大学編集者たちは、子どもたちのアイディアノートから絵本の企画を考えます。

STEP3 作画する

ストーリーがかたまってきたら、絵本のそれぞれのページにどんなストーリーを描くのか、絵本の設計図ともよべる「台割」の制作を行います。実際のページと同じサイズの紙に絵本のラフスケッチを描いていきます。

STEP4 編集する

プロの編集者と作戦会議を行います。作品のストーリーや原画の構成、その世界を100%表現できる形を模索します。

本の表紙やカバー、奥付など本を形づくる色々な要素を考えていきます。

印刷業者と打ち合わせしながら、紙選びや入稿データ、色校正を行います。

大学生編集者は、編集者の役割やスキルをプロの編集者から学びます。

STEP5 発表する

学生編集者による絵本の企画の紹介と、子ども作家による読み聞かせを行います。

絵本は図書館の蔵書として登録します。

● えほんプロジェクトから生まれた絵本たち

2 事業提案書

② 昭和女子大学や近接する文化行政施設との連携強化等による地域に根ざした図書館の取組み

② 昭和女子大学「昭和学報」(年2回発行)との連携記事制作

昭和女子大学との2つ目の連携事業として、大学報の連携記事制作をご提案します。

人生の先輩でもある作家(主に児童作家)をゲストに、自作も含めた本を題材にしながら、作家としてめざしていること、自分の大学生時代のこと、若い世代や子どもへの思いなどについてインタビューし、記事を制作します。読者は大学生だけでなく、子育て世代のママパパまでを想定します。インタビューと記事制作は大学生が担当し、作家のコーディネートと謝礼支払いは図書館が負担します。インタビュー記事は、図書館の情報媒体にも掲載します。

③ ひと箱図書館

近隣の文化行政施設等の学校長や教員、施設長・スタッフ、大学研究者・学生、町内会長、近隣にお住いの方々に、「ひと箱図書館」へ参加していただきます。

「ひと箱図書館」は原則として区立図書館にある資料から選んでいただいた本、10冊程度を段ボール箱等に入れ、自分の展示箱をつくるイベントです。

「ひと箱」が小さな図書館という位置づけで、それぞれ選書の理由やメッセージを添えてもらいます。児童用にも一般用にも展開可能です。異なる視点の選書により利用者の読書の幅を広げます。



④ 学生ボランティアとの協働について

図書館を一緒に作り上げていくボランティアとして、近隣教育施設等の学生に協力していただきます。学生自身が考える図書館のイベントの企画や運営、ティーンズコーナーの選書やPOP作り、図書館の広報や企画や業務サポートなど、様々な活動にご参加していただきます。区民との交流だけでなく、学生自身の成長にも役立つ企画です。



大学生ボランティア作成による
ティーンズコーナーPOP図書紹介
弊社受託館事例

2 事業提案書

② 昭和女子大学や近接する文化行政施設との連携強化等による地域に根ざした図書館の取組み

⑤ 区民のものづくり活動を支援する取組み

図書館の周辺には、世田谷ものづくり学校や世田谷文化生活情報センター生活工房等、区民の創作活動を支援する施設が充実しています。図書館もこれらの施設との連携を深め、地域のにぎわいを活性化するとともに、自然とのふれあいや人と人との交流を通じた制作イベントを実施するなど、区民の創作活動意欲を高める事業を実施します。



世田谷ものづくり学校

□ ファブラボワークショップ

「世田谷ものづくり学校」と連携した、ファブラボワークショップを開催します。

ものづくり学校内にある「Fablab Setagaya at IID」では、3Dプリンター、レーザーカッター、3Dスキャナー等のデジタルファブリケーション機器が設置され、誰でも使える地域に開かれたものづくりスペースです。

3Dプリンターを使ってそれぞれのアイデアを形にするワークショップ等、図書館ともものづくり学校が連携して開催し、オリジナリティあふれる地域の創作活動の機会を作ります。

□ 親子で楽しむ創作教室

「世田谷文化生活情報センター生活工房」との連携事業として、三宿四二〇商店街のカフェやフードショップ、雑貨屋等にご協力いただき、生活工房内のスペースで、身近な食材や植物を使った作品作りや料理教室を企画いたします。

会場には関連する本を持ち込み、図書館利用登録者にはその場で貸し出せるようにします。

区民と地域商店会との「交流」と「創造」を楽しむ企画です。

2 事業提案書

② 昭和女子大学や近接する文化行政施設との連携強化等による地域に根ざした図書館の取組み

⑥ 文化・歴史にかかわる地域連携事業

□ 平和資料館と連携した平和の情報発信

世田谷公園内にある平和資料館との連携で、パネル展示や歴史講座を開催し、相互に情報を発信します。

- 図書館では、平和資料館から戦争にまつわるパネルをお借りして、図書館で関連資料と一緒に展示します。
- 資料館の多目的スペースで歴史講座を開催し、資料館のライブラリーで講座に関連した図書館所蔵資料の展示やブックリストを配布します。

歴史講座

□ 郷土にふれる ガイド付きまち歩きツアー

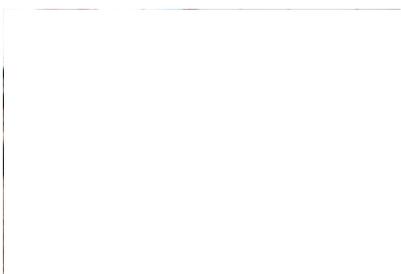
郷土史に詳しい地域NPOや団体の方々に協力いただき、地域の史跡やランドマークについて解説をしていただきながら散策し、町について実地的に学んでいく事業を開催します。散策の中では、図書館スタッフによる図書館資料を使ったミニガイドも行い、まちと資料をつないでいきます。

まち歩きツアー

⑦ 世田谷区内障害者施設との連携事業

こどものひろば公園に隣接する世田谷福祉作業所や下馬福祉工房等と連携し、共同事業を実施します。

- 図書館から作業所へ出張し、読み聞かせや工作会を開催します。
- 図書館内では、障害者の絵の展示や作業所の活動紹介、カフェ「しあわせのもりあわせ」のメニュー紹介等を行い、障害への理解を深めます。
- 図書館内で自主生産品販売を行い、施設の収益に貢献します。



障害者施設での読み聞かせ



福祉作業所自主生産品の販売

2 事業提案書

③ 児童書の貸出割合が高い図書館である特性などに着目した子ども関連事業の充実にに向けた取組み

下馬図書館における子ども関連事業では、世田谷区教育ビジョンや区の関連施策とのつながりを意識するとともに、現在の下馬図書館での取り組みをしっかりと継承して、子どもの読書活動につながる事業を積極的に行ってまいります。それぞれの世代ごとに利用者ニーズの高い新たな事業を取り入れて、子どもの読書環境づくりを推進してまいります。

01 幼児・保護者向け事業

① 「感じる」体験型おはなし会

子どもたちの創造性を高めるには、好奇心の芽を刺激することが重要です。その刺激の源となるものは、子どもたちの日常のフィールド外、すなわち「非日常」にあると考えます。私たちは、子どもたちに非日常的な体験の機会を提供し、創造的な学びの環境づくりを行います。

例えば、児童コーナーで行う通常のおはなし会とはちょっと違う、次の「やってみたい」を刺激する体験を入れ込んだ、下記のような様々なおはなし会を開催します。

- こどものひろば公園での「青空おはなし会」
- 図書館の地下室での「こわ～いおはなし会」
- 図書館の屋上を使った「星空おはなし会と観察会」
- 世田谷プレーパークとの連携ーたき火おはなし会

「NPO法人プレーパーク世田谷」と連携し、世田谷公園プレーパーク内で、たき火を囲んだおはなし会を行います。簡単な料理をつくったり、焼き芋を焼いたりなどを組み合わせることで、体験と読み聞かせる本の幅が広がります。子どもたちの生きていくための知恵を培う、学びにつながる様々な体験をご提案してまいります。

② 親子で楽しく、絵本作りワークショップ

子どもたちの「想像力」や「創造力」を刺激するイベントとして、絵本『999ひきのきょうだい』シリーズでおなじみの作家、手づくりおもちゃ研究家の木村研さんを講師に、成長の記念に残る仕掛けカードや絵本を、親子で楽しみながら作ります。

絵本は図書館で簡易製本します。

2 事業提案書

③ 児童書の貸出割合が高い図書館である特性などに着目した子ども関連事業の充実にに向けた取組み

③ ぬいぐるみお泊り会

子どもたちのお気に入りの「ぬいぐるみ」を一晩預かります。「ぬいぐるみ」が夜の図書館で読み聞かせをしたり、本の配架をしたりしている様子を写真に撮り、お返する時に写真をプレゼントします。



また、SNSを活用し、リアルタイムに子どもたちにレポートすることも可能です。子どもたちに図書館や本に関心を持ってもらうことを目的にした企画ですが、大好きなぬいぐるみが、本を読んだりお泊まりする姿を見ることで、子どもたちの想像力を刺激します。

④ 「こども食堂」等連携

地域の社会福祉協議会との連携を行い、こども食堂「せたがや子どもバル 虹」等の事業に参画し、図書館は出張読み聞かせを行います。

「夏の夜のお化けのお話大会」や「ハロウィン・ナイト」など、子どもの興味を引く特色ある読み聞かせを行うことで、読書の楽しさを味わってもらいます。

⑤ 図書館たんけんツアー

休館日や閉館後を使って、図書館探検ツアーを行います。書架の一部を迷路にしたり、クイズの答えを本から探したりしながら、図書館という施設に親しんでもらうとともに、普段は見るできないバックヤードも含めて案内し、図書館のたのしい使い方を学んでもらいます。

⑥ 家庭内の読書活動の支援

子どもの成長に重要な役割を果たす読書の機会の充実のため、引き続き家庭への読書支援が必要です。

赤ちゃん向け絵本リスト、乳幼児向けブックリストの配布は読書活動のきっかけとして、継続的に周知と拡充をはかっていくほか、親子で本を読む楽しさや大切さを知っていただけるよう、保護者に対して、子どもの読書に関する講座を開催いたします。

絵本読み語り講座

2 事業提案書

③ 児童書の貸出割合が高い図書館である特性などに着目した子ども関連事業の充実に向けた取組み

02 小学生向け事業

① 読書活動のきっかけをつくる様々な事業

スタンプラリーやおたのしみ袋などの図書館グッズの記念品つきイベントの開催や、SDGs等話題の展示、読書活動のきっかけになる興味を引く工夫や自発的な学びや思考力、表現力を育む事業を実施します。



スタンプラリー



記念品付イベント



話題の展示



季節の行事



調べ学習コーナー

□ 子ども工作教室

季節・行事等に合わせ、身近な材料を使って簡単に作れる工作会を開催します。図書館スタッフが説明、サポートしながら工作を行います。「説明を聞き、正しく理解する」体験を通し、子どもたちに「課題を解決すること」を知ってもらう機会にします。

□ 子ども図書館員の実施

図書館や本に興味のある子どもたちのために「子ども図書館員」体験を開催します。分類の仕組みや簡単な図書館作業などを行い、図書館について体験してもらいながら図書館に親しみをもってもらいます。

□ 知的好奇心をくすぐる展示

普段は関心がないジャンルの本でも、気軽に手に取っていただけるようなテーマを設定し展示します。ひとつのテーマでも様々なものの見方を伝えられるよう、NDC0類から9類まであらゆる角度から本を収集し、幅広く、深い展示を目指します。



2 事業提案書

③ 児童書の貸出割合が高い図書館である特性などに着目した子ども関連事業の充実にに向けた取組み

② 学校への読書活動支援

児童書の貸出割合が高い下馬図書館では、管轄する区域内の区立小・中学校の担当も8校と他館に比べ多くなっています。

学校や学校図書館司書の要望に応じて、図書館司書による区内学校図書館への積極的な読書活動の支援を行います。各学校の司書教諭や学校図書館司書と区立図書館司書が定期的に交流し、学校図書館の運営について情報共有や連携を図ってまいります。具体的には、出張ブックトークや調べ学習や図書館の使い方講座等、総合的に学校図書館をサポートします。

また、世田谷区では、GIGAスクール構想に対応した児童・生徒へのタブレット端末の配布が完了しており、教育現場のDXに対応した支援についても、積極的に行ってまいります。

※ 事業者Aは、区立小学校61校で学校図書館司書業務も受託しておりますのでスムーズな連携・協力が可能です。より地域に密着し、学校のニーズに合わせた活動支援を実施します。

□ 出張ブックトーク

学年毎やその対象に応じて、ブックトークを行い、お勧め図書やものがたりの楽しさを伝えます。ブックトークの際には、テーマに沿ったブックリストを必ず作成し、配布することで読書活動へとつなげます。

□ 世田谷区電子書籍サービス等、ICT操作支援

世田谷区で導入されている電子書籍サービスの操作方法や図書館資料の検索方法等の説明会を実施し、ICTを活用した読書活動を支援します。



□ 地域資料デジタルアーカイブを活用した出張講座

世田谷デジタルミュージアムのデジタルコレクションや文化散策マップ等、地域に関するデジタル資料とその検索方法を紹介する出張講座を実施します。地域・郷土の学習活動に役立てていただくとともに、地域に愛着を持ってもらう機会を演出します。関連した図書館資料も紹介します。

□ 新BOPへの支援

子どもの健全な育成や、子育て家庭の支援を目的とし、BOP(ポップ、放課後の自由な遊び場)と学童クラブ(学童保育)を統合した、区独自の事業に対し、出張読み聞かせやワークショップ等を開催します。

子どもの居場所づくりに本や資料を活用し、読書活動を支援します。

2 事業提案書

③ 児童書の貸出割合が高い図書館である特性などに着目した子ども関連事業の充実に向けた取組み

03 中学生・YA世代向け事業

子どもから大人への移行期であるYA世代は、勉強や部活動等のため、図書館の利用から遠ざかる傾向にあります。漠然とした将来への不安や人生の選択を迫られて悩むこの時期に、読書は、世界や視野を広げることで複雑な社会に順応し生きる力を身につける大事な手段です。

しかし、自己形成の過程であり、最も多感でもあるこの時期に単に図書館や本の素晴らしさを啓蒙的に訴えるだけではなかなか彼らの心には響きません。

YAサービスは、まず彼らの主体性を尊重し、インターネットやSNS等を活用することで図書館や読書活動への入口を広げ、「感動」「共感」や「自己肯定感」が得られるようなアプローチを図りたいと考えます。

① 「作家によるトーク番組」(YA層向け)

人生の先輩でもある作家(主に児童作家)をゲストにしたトークイベントを開催します。「どう生きるか」を徹底するテーマに、自作も含め本を題材にしながら、作家としてめざしていること、自分のYA時代のこと、若い世代への思いなどを、オンラインで語ってもらいます。

事前に、あるいは視聴している最中に、イベント参加者から質問を受け付け、作家の回答を聞くなど、双方向のコーナーも設定します。

トークの要約や参加者からの質問と回答などは、後日、図書館でまとめ、インターネットやプリント物で提供します。

また、YA層利用者によるおすすめ本や感想なども、図書館のYAコーナーで展示するだけでなく、インターネットやSNSを活用することで、新たな利用者を取り込んでまいります。

② ビブリオバトル

中学生以上を対象とした複数人がお気に入りの本を紹介し、どの本が読みたくなったか聴衆の投票で競い合うビブリオバトルを実施します。学校やビブリオバトル普及委員会等の協力も得ながら、図書を通じた大学生や大人との交流の機会にもなります。こちらもオンラインでの開催を企画します。

③ 中学生の職場体験の受け入れ

図書館での配架や読み聞かせ、おすすめ本紹介記事、読書活動啓発のポスター作成などのサービスを体験してもらいます。直接図書館と接し、知識や技術・技能に触れることで、学ぶことや働くことの意義を理解し、図書館の役割を実感できる場の形成に努めます。

2 事業提案書

④ 第2章で記載する自主事業の取組み

1 事業区分 (1) 自主事業 (目的内)

01 デジタルサイネージを活用した、双方向の情報発信

エントランスフロアにはデジタルサイネージを設置します。館内の情報、図書館行事情報等の広報や、地域の様々な情報発信の活用していきます。

搭載するコンテンツとしては、館で制作する画像・テキスト情報に加え、ネットワークにつなぐことにより、利用者、あるいは地域施設との間で双方向の情報掲示をすることができます。

例えば、利用者には図書館があらかじめ指定したハッシュタグ(# ~)を付けてSNS等で発信して頂くことで、デジタルサイネージ・アプリケーションはその情報をほぼリアルタイムで収集し、図書館が表示を許可したものについては、サイネージに投影することができます。

つまり、図書館のツイッター等でのつぶやきを見た利用者の反応を表示していくようなコンテンツが、図書館スタッフの作業を介さずに自動的に作成されるため、多様な展開が可能な双方向掲示板となります。特になかなか来館へとつながらない中・高校生に対しては、自分たちのつぶやきが誰もが目にするエントランスフロアのサイネージに自動的に掲示されるのは今までになかった体験となり、図書館との新たな関係性を作るきっかけともなります。

そのほか、天気予報、ニュースといった即時性ある情報もネットワーク経由で取得し、随時掲示することで、利用者に利便性の高い情報提供を行います。



弊社受託館でのTwitter発信例

2 事業提案書

④ 第2章で記載する自主事業の取組み

1 事業区分 (2) 自主事業 (目的外)

01 防犯カメラ設置によるセキュリティ強化

下馬図書館は3階建てかつ死角も多い構造のため、日頃の職員の定期巡回だけではなく、防犯カメラを設置することによるセキュリティ強化をご提案します。設置に際しては、世田谷区様と事前協議の上、進めてまいります。

- 設置イメージ(案)※設置場所は変更となる可能性があります

□ 遠隔拠点からの監視・機械警備との連動機能

設置予定機器は施設内に設置されるモニターだけでなく、遠隔からPCやスマートフォンで視聴することも可能です。(ID・パスワードの入力必須)また、機械警備と連動させることにより、機器に異常・故障があった際は機械警備会社へ通知されるような仕様も想定しています。

02 図書除菌機の導入

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、衛生意識や清潔志向が高まっています。来館者自身が自由に利用できるセルフ式図書除菌機「LIVA」の設置を提案します。約30秒で本に付着しているウイルスを紫外線で除菌するとともに、風によりホコリなどの異物を除去することができます。



「LIVA」は全国の公共図書館を中心に約1,300館の導入実績があります。(2021年7月末現在)